

「公民館へ行こう！」

橋詰 朝子 (茂田井)



平成8年 成人式受付の際の1コマ (左から2番目が橋詰さん)

い経験になりました。芸能発表会の進行や、娘二人の成人式の式典に立ちあえたこと、歩け歩け大会の牛乳サービス等、大勢の参加者がいたこともあり、楽しい思い出になっています。

あの頃、次々と講座など企画され、参加するたびに新たな発見も出来ました。

現在週一〜二回公民館を利用している一町民として「公民館に行こう！」と言いたいです。実際、玄関のボードにはいつもたくさん使用されている様子が見られます。公民館の催しなどに参加することにより、新しい発見や出逢いがきつと待っていると思います。

しかし、実際は人とのつながりが希薄になり、皆で集って何か始めようという、仲間づくりは安易ではないかもしれません。でも、面倒臭いと片付けてしまえば、前に進むことはできないのでは？何事にも好奇心を持ち、公民館という、地域コミュニティの核の場で、仲間作りの輪が広がればいいと、そんなことを思う、この頃です。

私が本館職員として、公民館の仕事のお手伝いをさせていただいたのは、もうふた昔も前になります。六十号を数える館報も、特集の企画や原稿依頼、風見鶏への寄稿など、年二回の発行の手助けが出来たことや、様々な行事の裏方として参加できたことは、良

「公民館本部職員を振り返り」

市川 峰之 (西塩沢)

20代半ばだった私にとって、「公民館本部職員とは何ですか？」というのが一番最初の正直な感想でした。

それから10年、様々な公民館活動に触れ、体験していく中で、多くの事を学びました。

成人式、歩け歩け大会、文化展、綱引き大会、芸能グループ発表会に館報の編集とか…。初々しくも希望に満ちた新成人の顔。沢山歩いて疲れちゃったけど、まだまだゴールまで頑張りたい気持ち一杯の子どもの顔。自分の作品の見え方に最後までこだわり、向き合う人の姿。

勝ち負けよりも何だか楽しそうに綱を引き、逆に、応援している人の方に力が入っている、まさに「チーム戦」。発表を終え、今までの緊張感から一気に開放される舞台袖のお母さん達の笑顔。沢山の笑顔に出会う事で、この町の良さ気が付いたり、学ぶ事が出来ました。この館報の「風見鶏」を書く時は、時事ネタなのか何なのか迷いに迷い、短い文章に想いを乗せ損ねたのも良い思い出です。

今回、機会を頂き改めて色々思い返し

てみて、一般的に公民館は地域の人の学びの場というイメージが強いのかなと思います。ですが、その実、活動はかなり多彩です。

これから先々の事を想うと、流れ行く時代の中で「変わってはいけないもの」「変えていかなければならないもの」が、きつとこれから出て来るのだろうと感じています。

今回、館報60号の節目をきっかけに、今一度、「公民館って何だろう？」を原点に帰ってみんなで考えてみてはどうでしょうか？その先に、「みんなが笑顔で学べる場所」が、できる事を願っています。これからも益々、公民館活動が発展します様にと想いながら…。



歩け歩け大会牛乳サービスの1コマ (昭和61年頃)